伊豆諸島におけるアカハタ栽培漁業に向けた基礎的研究

【背景と目的】

近年、温暖化に伴う海水温の上昇は、全国的に水産資源へ影響を及ぼし、伊豆諸島海域においては藻類や貝類の漁獲量が低迷している。このため、第 8 次東京都栽培漁業基本計画では、従来のアワビ類およびサザエの種苗生産に加え、熱帯性のアカハタを新たな生産対象候補として研究対象種に位置づけ、情報収集が進められている。しかし、アカハタの種苗生産の実用化に向けては、依然として解決すべき課題が残されている。過去に小笠原海域において種苗生産が行われていたものの、北部海域とは水温条件が異なるため、産卵期などの生産特性が一致しない可能性がある。また、親魚となる天然個体の系群構造や病原体の保有状況については不明な点が多い。さらに、放流後の行動や在来生物への影響についても知見が不足しているのが現状である。これらの課題に関する知見を蓄積することで、効率的な種苗生産技術の確立と、効果的な放流手法の開発を目指す。

【研究概要】

（１）生態の把握

・産卵特性の把握

・食性の把握

・行動生態の把握

（２）系群・遺伝的多様性の確認

（３）天然魚のNNV保有状況の把握